

就任あいさつ

腎臓内科長、血液浄化療法部長 中島 歩



令和5年4月より、腎臓内科教授・診療科長に就任しました中島歩と申します。7月からは血液浄化療法部長を兼任しております。私は、山梨医科大学の卒業生(平成11年卒14期生)であり、この度もご縁をいただきましたことを幸甚に存じております。学生時代は、いちやまマートで食材を購入しておりましたが、現在は、ヤマダ電機やイオンが出店し、学生も暮らしやすい環境になっていることに感激しています。大学病院を中心に関連病院とも連携して、山梨県の次世代を担う優秀な腎臓内科医の育成に尽力してまいります。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

腎臓内科では、急性腎障害、慢性腎臓病、腎不全に加えて、腎臓病の原因となる高血圧、糖尿病、膠原病などに対する治療を幅広く行っています。血液浄化療法部では、血液透析の他、血漿交換、免疫吸着療法、LDL吸着療法、エンドトキシン吸着療法などを担当しています。最新の知見に基づいた的確な診断と最適な治療を心がけ、地域に愛され、信頼される腎臓内科・血液浄化療法部を目指して精励してまいります。

我が国の透析患者数は34万人を超え、新規の透析導入患者数も年々増加して年間4万人を超えており、腎不全への進行を早期から防止する取り組みが必要です。現在、山梨県福祉保健部と山梨県議会の支援を得て「やまなし減塩プロジェクト」を開催するための準備をしております。こちらにつきましてもご支援をいただけますようお願い申し上げます。

就任あいさつ

産婦人科長、生殖医療センター長 吉野 修



2023年5月より産婦人科長を拝命いたしました吉野修(よしのおさむ)と申します。本学の卒業生として、山梨県の医療を支えることができることに、大変やりがいを感じております。何卒宜しくお願ひ申し上げます。

私たち産婦人科は、未来志向型の科です。産科は安全な妊娠、分娩を通して山梨県の発展を目指し、また挙児希望のある方に適切な不妊治療を行う生殖医療を提供しております。婦人科は各種疾患に対して、健康な日常を取り戻していただくために、教室員一同で

頑張っております。現在、産科、生殖医療、婦人科その全てを網羅している大学病院は減少しております。当院は多くの診療科の皆様のご協力の下、全分野を網羅することができております。この場をお借りして御礼を申し上げますとともに、今後とも変わらぬお力添えをくださいますよう、お願ひ申し上げます。

周りの方々との関わり合いの中で、最も重要なことは、相手をリスペクトすることだと思っております。私の座右の銘は父が諭してくれた、“我以外、皆我が師なり”です。医師間だけではなく、co-workerの皆様ともお互いをリスペクトすることで山梨大学医学部附属病院を盛り上げていきたいと存じます。何卒ご指導のほどお願ひ申し上げます。

就任あいさつ

総合診療部長 針井 則一



令和5年4月1日付にて総合診療部長を拝命いたしました針井則一と申します。地域医療学・総合診療学講座の教授を兼務しております。私は本学の前身である山梨医科大を卒業後、第三内科に入局し、その後救急科、地域医療学講座などで教育と医療に多くの時間を費やして参りました。平成27年に佐藤前地域医療学講座教授よりお声がけをいただき総合診療部の立ち上げに携わり現在に至ります。大学病院における総合診療の存在意義はトップクラスの医療を提供する各診療科と連携すること、大学病院に親和性のある総合診療医の教育・研修拠点の一つとして山梨県の地域医療に貢献することだと思っております。現在、総合診療外来

ではコロナ後遺症外来なども担当していますが、リソース不足とそれに起因する院内外での認知度の低さを解消することが課題となっております。まずは教育にも活用できる専用の外来診療ブースの獲得と週3日の外来枠を週5日に増やすことが目標です。

また医学部教育については、これまで地域医療学講座が担ってきた一連の講義と実習を発展させていきたいです。医学部の国際認証にも関わることですが、国家試験対策に留まらない幅広い医学教育による人材育成が求められています。最近実施した、低学年実習では各診療部門の皆様大変お世話になりました。参加した学生たちは、医療が多職種連携の上に成り立っていることを理解することができ、学修のモチベーションアップに繋がったことと思います。今後とも院内各診療科・各部署のご協力をお願い申し上げます。

就任あいさつ

循環器救急センター長 佐藤 明



2023年4月1日より循環器救急センター長を仰せつかりました佐藤明でございます。循環器救急センターでは、当院循環器内科及び心臓血管外科を中心として、重症または救急医療を必要とする心臓・血管その他の循環器疾患に対応し、最新の医療機器を駆使した高度な循環器救急診療を行っております。また、急性心筋梗塞に対する緊急カテーテル治療、急性大動脈解離・大動脈瘤破裂に対する緊急手術などを年中無休の24時間体制で対応しております。循環器系の緊急重症疾患に対応するため、大動脈内バルーンポンピング(IABP)、補助循環用ポンプカテーテル(IMPELLA)、経

皮的心肺補助(PCPS)などの補助循環装置を積極的に活用しています。

昨年10月から血管造影室が2室に増設され、急性心筋梗塞に対する緊急カテーテル治療の要請を断ることなく、救急患者さんのスムーズな受け入れが可能となりました。また、循環器救急センター専従のERナースを配置し、他医療機関と当センターをつなぐ専用のホットラインを開設しました(Tel:055-273-1119)。それによって当院到着後はファストトラック患者として病院の全部門が最優先に対応し、治療までの時間を短縮しました。更に小林剛特任講師を専任教員として配置し、循環器救急診療の効率の良い運営・管理を行い、循環器救急センターの更なる充実した体制の構築を図っております。今後も病院の力を結集して、循環器救急疾患に対応して参りたいと存じます。

就任あいさつ

総合支援部業務支援センター長、医療福祉支援センター長 三井 貴彦



2023年4月より総合支援部に属する業務支援センターおよび医療福祉支援センターのセンター長に就任しました三井貴彦と申します。

業務支援センターは6つの部署で構成され、病院業務を円滑に進められるように各室長、各師長が中心となって推進しています。病床管理室では、コロナ対応など病床を効率的に活用できるように各診療科や各病棟看護師の協力を得ながら病床を管理しています。外来支援室では、効率的な外来診療のシステム構築や外来業務の見直しを図り、改善を得ています。地域の医療機関との連携に尽力する地域医療連携室や診断書作成の遅延が生じな

いように働きかける診断書支援室、喫緊の課題である働き方改革では、働き方支援室が中心となり各方面と調整しながら、より良いシステムを構築すべく試行錯誤しているところです。また、保険診療支援室における各診療科への働きかけにより、査定件数の減少などの改善に繋がっています。

医療福祉支援センターは、医療福祉相談室、国際医療支援室、難病支援室、心理支援室で構成され、医療福祉において各方面から患者さんの支援ができるように各室長、各師長が中心となって推進しています。中でも、院内外の虐待事例では、適切に対応すべく各々の事例に沿って対応しています。

今後も、業務支援センターおよび医療福祉支援センターでは、関係各所と連携を深めながら推進して行きたいと考えています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

就任あいさつ

栄養管理部長、臨床教育部専門医キャリア支援センター長 土屋 恭一郎



この度、栄養管理部および臨床教育部専門医キャリア支援センターを担当させていただくこととなりました。

栄養管理部では、患者さんの治療に関わる医療栄養業務、入院患者さんの給食業務および院内外の栄養教育の支援を行っています。入院生活においては食事に喜びを感じていただけるよう、旬の食材を積極的に取り入れた季節感のある食事の提供など、「食の安全・安心」と「食の楽しみ」の両立を目指しております。栄養指導や栄養サポートチーム、褥瘡対策チーム、緩和ケアチームなどのチーム医療にも参画し、チームの一員としての診療にも従事しています。今後は今以上に

各種学術活動の推進にも努め、大学附属病院としての役割を広く全うしたいと考えております。

専門医キャリア支援センターは、専門医を目指す先生方が確固たるキャリアビジョンを持ち、実現に向けて総合的なサポートを提供する組織です。新専門医制度は2018年度にスタートしたものの、特にサブスペシャリティ領域の体制は現在も変化し続けています。当センターでは、山梨県地域医療支援センターとも連携し、専門医制度の新たな情報や当院の各診療科と山梨県内外の基幹病院や連携施設の情報、および県の支援に関する情報等も提供してまいります。

部門における活動を通じ、当院の益々の発展に寄与できるよう精進してまいります。ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

就任あいさつ

材料部長 櫻井 大樹



この度、材料部長に就任しました櫻井です。材料部は病院の中央診療部門の一つとして設置されております。外来や病棟での診療や検査、手術など、院内の様々な場面で使用される再使用可能医療機器(RMD)を無菌性の保証のもと、再生処理を行い供給しています。同時に、医療用消耗品を管理し、必要に応じて供給する役割があります。

各診療科や各部署で行われる診療において必要不可欠である医療用機器と医療用消耗品を安定して供給することは、病院機能のインフラとして重要であると考えます。

当部門では、診療が安全かつ円滑に行われるように様々なRMDに対応した洗浄・滅菌機器を整え、使用されるRMDの品質を維持し、患者さんの安全確保に努めています。

今後も院内での安全な診療を維持するために努力して参ります。よろしくお願ひいたします。



就任あいさつ

分娩部長 奥田 靖彦



令和5年4月より、分娩部長に就任いたしました。出身は千葉県松戸市で、平成7年に当時の山梨医科大学の10期生として産婦人科教室に入局し、大学院を卒業した後一般病院の産婦人科勤務を経て、平成14年7月から当院に勤務しています。主に周産期医療をサブスペシャリティとして従事してきました。

分娩部の特徴は、分娩後の異常出血に代表される母体救命が挙げられます。院内発生のみならず、県内の各施設から救急搬送されることも多く、迅速に対応することが肝要ですが、これには救急部、輸血細胞治療部、検査部、手術部、麻酔科、放射

線診断科等の方々のご協力なくしては救命することはできません。また、精神疾患、COVID-19等の母体合併症や先天性心疾患に代表される胎児先天疾患も数多く対応させていただいておりますが、これにも精神科、内科、遺伝子疾患診療センター、小児科、小児外科、脳神経外科、麻酔科、NICU、GCU等の方々に日々助けていただいております。この場を借りて感謝申し上げます。

上記のようなハイリスク分娩のみならず、当院ではローリスクの分娩も扱っており、妊婦さんおよびご家族の満足度向上のために助産師と協同して「院内助産システム」を全国の国立大学に先駆けて取り入れており、好評をいただいております。今後も安全かつ満足度の高い分娩部を目指し、分娩部スタッフとともに日々精進していく所存であります。よろしくお願ひいたします。

就任あいさつ

光学医療診療部長 高野 伸一



光学医療診療部では、消化器や呼吸器領域における悪性腫瘍・炎症・出血・感染症の診断・治療を内視鏡を用いて行います。日本で多いがんによる死亡数は、上位10位中7つを消化器と呼吸器が占めておりますが、その診療においても内視鏡の役割は極めて大きく、診断法や治療法の進化と共に内視鏡が求められる機会は増加しています。食道・胃・大腸癌は早期であれば内視鏡による低侵襲な治療が可能ですが、そのためには正確な診断と精密な治療技術が必要となります。がんの診断と治療には、組織採取やステント留置術を行いますが、そこには熟練した超音波内視鏡や膵胆道

造影検査の技術が求められます。当部門では、内視鏡関連学会の専門医・指導医資格を持つ多数の熟練医により、正確・精密・高度な内視鏡診療の提供、若手医師への教育および関連学会への積極的参加により知識や技術の向上に努めております。

2022年1月に新内視鏡室が完成し、設備の刷新とスタッフの増員により多くの検査が効率的に行えるようになりました。このような中、2022年度における光学医療診療部での総検査件数は6,619件となり、診療報酬に大きく関わる処置内視鏡件数は、内1,256件と10年前の約80%増でした。高度医療の中核として光学医療診療部の役割はますます大きくなっており、関係者一同で全力を尽くしております。今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

就任あいさつ

医療の質・安全管理部長 荒神 裕之



令和5年4月より医療の質・安全管理部長を拝命しました。令和元年に山梨大学に着任してから4年余、歴代の安全管理責任者である榎本信幸先生、木内博之先生にご指導賜りながら、大学病院における医療の質・安全の向上を目指し取り組みを進めて参りました。着任以後、日々の医療安全活動に加え、インシデント報告、死産・死亡報告の各システムの本学独自開発による更新や病院機能評価の受審、医療安全 e-learning の構築、地域の医療機関への安全管理体制構築の支援などを行って参りました。この間、COVID-19のまん延による医療機能と医療者への大打撃や、社会情勢の変化に合わせた

大学病院機能の再構築など、大きな変革を迫られる中で、現場の医療者一人ひとりへの支援の重要性を改めて痛感しています。

医療は、患者と医療者の人間関係の中で繰り広げられる営みです。患者、医療者双方の安全を護っていくためには、人間であるが故に生じる諸問題、例えば、「人は誰でも間違える」で有名なヒューマンファクターの問題や、感情が渦巻く医療現場ならではのケアにまつわる問題、人材育成や人材確保などの課題解決に取り組む必要があります。効率性と安全性はトレードオフとも称されますが、人工知能(AI)の急速な普及やデジタルトランスフォーメーション(Dx)の発展などの機会を活かしながら、効率と安全の両立を図る高度な安全管理体制の確立を目指して取り組んで参ります。

就任あいさつ

感染制御部長 井上 修



感染制御部長を拝命しました、井上修です。コロナ禍にあつては数々の感染対策と行動制限へご理解いただき感謝申し上げます。疾患の特徴や感染対策のポイントが徐々に解明されてきたことから緩和の方向へと舵を切っておりますが、皆様には今後ともご協力賜りますようお願い申し上げます。

感染制御部の陣容を紹介いたします。窪川看護師長、入倉副看護師長、山中看護師は感染管理認定看護師 (ICN) として、感染制御部そして感染制御チームの要を担い、窪川看護師長を中心に、全方位を俯瞰しながら的確に諸問題へ解決策を繰り出します。抗菌薬適正使用チームでは、一瀬薬剤

師が長期使用例や疑義症例の分析、最適投与量の計算など多くを担います。培養されたコロニーの外見や臭気で菌名を当てる微生物検査のプロである臨床検査技師の内田副技師長と松野技師は、両チームを検査面で支えています。昨年12月に待望の仲間、鈴木哲也医師が着任しました。鈴木医師は国立国際医療研究センター病院国際感染症センターで研鑽を積み、感染症専門医の資格を取得しています。各対策や抗菌薬治療について医師の視点で評価し、各科の診療業務が安全かつ順調に果たせるよう調整しています。我々は着々とバージョンアップを遂げています。

感染制御部は多職種混成チームです。お互いの専門知識を出し合い、感染制御のスキルアップと安全な就労環境を目指します。よろしく申し上げます。

就任あいさつ

薬剤部長 鈴木 貴明



2023年7月付で薬剤部長として着任いたしました鈴木貴明と申します。私は東京理科大学を卒業し千葉大学大学院修了後の1999年に千葉大学医学部附属病院薬剤部に入職しました。千葉大学では薬剤部業務全般を経験し、その後は教員として病院薬剤部と薬学部を兼務しながら病院業務、教育、研究に携わってきました。

近年の医薬品は飛躍的な発展をし、新たに登場する新薬は従来の低分子化合物に代わってバイオ医薬品が主流となりました。新型コロナウイルスワクチンにも代表されるような核酸医薬さらには細胞治療にまで医療や薬物療

法が進歩しております。同時に医薬品の取扱いや副作用管理などが高度化、複雑化しており、医薬品の適正使用や安全な薬物療法提供への薬剤師の果たす役割が一層重要となっております。このような時代に対応するため、当薬剤部では調剤をはじめとする中央業務をスリム化、効率化して患者さん個々の薬物療法を管理する病棟業務やチーム医療への貢献に注力していくことを目指します。さらには、保険薬局との連携により外来患者さんの薬物療法の質および安全性向上にも尽力することで地域医療に対しても貢献していく所存です。

今後は、臨床上の問題点を解決してエビデンスを創出する研究力の向上、薬学生や新人薬剤師の教育を通じ、次世代を担う薬剤師の育成にも薬剤部一丸となって取り組みますのでご支援とご指導をよろしくお願いいたします。

就任あいさつ

医療の質・安全管理部看護師長 青木 真里



令和5年4月1日付けで医療の質・安全管理部看護師長を拝命しました。医療安全管理部門の看護師長という重責を担うことになり、身の引き締まる思いです。

医療の質・安全管理部は、インシデント報告等を通じた事例の情報収集と分析に基づき、再発予防策を立案しています。2022年度のインシデント報告は、5,729件でした。近時、高度な医療を提供するために、業務が煩雑になっている背景から、スタッフ間の関係調整を要する内容の報告が目立っています。「人の命を預かる仕事であり、ミスは許されない」と教育を受けてきたために、真面目で一生懸命な職員ほど互い

に正論により傷つけやすい傾向にあると感じています。質改善に取り組み、業務改善を行うことはもとより、私自身が病院職員を大切に、互いが相手を理解しようと努めることができる組織風土づくりを目指していきたいと思えます。

医療の質・安全管理部は、今年度、これまで長きにわたり病院の安全を守ってきた先輩方が異動となり、メンバーが大きく入れ替わりました。私自身も看護師長という役割のバトンを受け取ることが大きなプレッシャーですが、自分らしく仲間と協力しながら良いチームを作っていきたいと思えます。管理者として経験不足は否めませんが役割を果たしていけるよう精一杯、取り組みます。今後ともご指導よろしくお願い申し上げます。

就任あいさつ

総合支援部退院支援・医療福祉看護師長 松土 裕子



令和5年4月1日付けで総合支援部退院支援・医療福祉の看護師長を拝命いたしました。退院支援・相談部門の所属は今年で11年目となりますが、わずか3名だった看護スタッフも今では23名となりました。病院を訪れる患者さんご家族からのあらゆる相談への対応及び病床運用に影響する退院調整という、大きな役割を求められる部署の看護師長に就任し、その重責に身の引き締まる思いです。

総合支援部医療福祉支援センターの医療福祉相談室は、患者サポート体制を担い、相談内容に応じて他部門と連携協議し問題解決に努めております。入退院支援セン

ターには、入院支援室、退院支援室、在宅支援室の3つの室があり、Patient Flow Management (PFM) を意識し、患者さんご家族が安心して退院後の生活を送れるよう病棟や外来と協働しながら支援を行っております。

昨今、医療現場では多職種連携の必要性が求められており、まさに退院支援における多職種連携は必要不可欠です。患者さんの退院には治療経過だけでなく、日常生活動作の低下、自宅の様子、家族の支援など統合的な判断が求められます。それぞれの専門職が捉えた患者情報の共有により、状態に合わせた円滑な退院支援が可能になると考えております。MSW とともに質の高い退院支援マネジメントを目指し努力して参ります。今後ともご指導ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

就任あいさつ

GCU 病棟看護師長 寺島 由美子



令和5年4月1日付で新生児治療回復室(GCU)師長を拝命いたしました。GCUは新生児特定集中治療室(NICU)の後方病床として稼働しながら、県内の分娩を取り扱う16施設の産科救急に24時間対応できるよう産科・NICUと協力体制をとっています。急性期の治療を終えた新生児をケアするとともに、出生前から地域・児童相談所の介入が必要なケースや先天性心疾患など退院にむけて外泊を繰り返すお子様等、入退院支援センター、小児科病棟とも連携を図っています。この3年はCOVID-19の感染予防で入院中の子どもと家族の面会が難しくなりましたが、子どもにとって家

族との面会は治療の一環であるということをご理解いただき、各部門協力体制のもと家族の面会を続けることができました。家族との時間を作ることはリラックス効果をもたらし、免疫系の機能の向上に繋がります。回復期の新生児の自己治癒力を最大限に発揮できるようスタッフ皆で入院中の環境を整え、退院後も新生児が愛される養育環境で過ごせるよう指導やケアを行いながら関係各所と連携を図っていきます。ケア提供者が癒されていなければ人を癒すことは難しいため、看護師が支援される環境を管理者として作っていきたくと思います。小児科、新生児集中治療部での経験しかなく未熟ではありますが、スタッフと共に成長していきたいと思えます。今後ともご指導ご協力をよろしくお願い申し上げます。

就任あいさつ

4階西病棟看護師長 伊藤 由香



令和5年4月1日付で小児科病棟看護師長を拝命いたしました、伊藤由香です。整形外科、内科、眼科病棟を経験させていただき、小児科病棟では3年目となります。

新型コロナウイルスの流行に伴い、小児科病棟も小児科の患者さんだけでなく、全診療科の小児の患者さんが入院される病棟となりました。今まで経験したことのない疾患がありましたが、これからもスタッフ一同、安心・安全な看護実践に取り組んで参ります。

私は、患者さんにとってもスタッフに

とっても、居心地の良い病棟作りに励んでいきたいと思っています。小児科病棟は、長期入院の患者さんが多く、両親と離れ、不安な中、治療を受けています。私たち看護師はスムーズに治療が行なえるよう患者さんに寄り添い、安心して療養生活を送れるよう患者さんの尊厳を大切にしながら関わっていきたくと思います。また、小児科病棟では家族看護はとても重要となります。ご家族において大切なお子様に安心・安全な治療と退院後の生活も見据えた看護実践が行えるようスタッフ一丸となって取り組んでいきたいと思っています。

管理者として未熟ではありますが、スタッフとともに成長していきたいと思えます。今後ともご指導よろしくお願ひします。

就任あいさつ

5階西病棟看護師長 磯野 絵美



令和5年4月1日付にて5階西病棟看護師長に拝命いたしました磯野絵美です。就任にあたりご挨拶させていただきます。

私は、山梨大学医学部附属病院に入職後、消化器外科、皮膚科、外来、教育担当を経験させていただき、今回5階西病棟へ配属となりました。私が、結婚・出産・育児をしながら仕事を続けてこられたのは、ライフスタイルに合わせた働き方を理解してくれた上司のお陰であると感じています。

5階西病棟は、新型コロナウイルス(COVID-19)感染症病床と消化器内科・歯科口腔外科病床を担当しています。令和5年5月、新型コロナウイルス(COVID-19)感染症の5類

感染症への変更に伴い、一般病床との混合病棟になったことで、今まで以上に感染対策が必要になりました。5階西病棟のスタッフは、感染症分野の看護師としての意識を高く持ち、新型コロナウイルス(COVID-19)感染症のフェーズに応じた病床数の変動に対して臨機応変に対応する能力を向上させながら、チームでこの課題に取り組んでいます。

私は、患者さんやスタッフの声を直接聴くことを大切にしながら、患者さんが安心して5階西病棟に入院していただけるよう、スタッフと共に「すべての患者さんに安心を」を目指しています。また、スタッフに対しても看護師人生を送る中、この病棟で看護が出来てよかったですと感じてもらえるように、一人ひとりの想いを尊重しながら看護管理者として成長していきたいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。

就任あいさつ

7階西病棟看護師長 内田 純子



令和5年4月1日付で7階西病棟の看護師長となりました内田純子と申します。私は、平成16年に山梨大学医学部附属病院に就職し、消化器外科や呼吸器内科、婦人科などの経験を重ねて参りました。

その中で、がん化学療法を受ける患者さんの苦難を知り、看護師として実践力を向上させ、患者さんにより良い療養環境を提供したいという思いから、平成26年にがん化学療法看護認定看護師の資格を取得いたしました。

7階西病棟は、血液・腫瘍内科が主科であり、患者さんは長期間に及び、侵襲の大きいがん化学療法を受けています。患者さんは、様々

な葛藤や困難を経験し、同時に患者さんと向き合う看護師自身も葛藤や困難に直面します。私は、患者さん、看護師双方が苦難を乗り越えられるよう、認定看護師の資格も活かし、支援していきたいと考えています。

また、令和5年4月からは、同種造血幹細胞移植を受けた患者さんを対象としたLTFU(移植後長期フォローアップ)外来も開始いたしました。専門的な資格を有した看護師が、患者を看ることで、移植後晩期合併症の早期発見、治療開始に繋がっています。

看護師長として、患者さんが安全に安心して治療を受けていただけるよう、看護職が協力し合い、助け合い、思い合い、労い合いながら、働きやすい環境を整えていきたいと考えております。看護師長として経験不足ではありますが、今後ご指導のほどよろしくお願い致します。



本年4月、9年ぶりに甲府キャンパスから医学部キャンパスに戻り、事務部長を務めることになりました。前職では、総務部長として臨機応変にスピード感を持って仕事に取り組むことを大切にしてきました。どうぞよろしくお願いいたします。

当院が開院した昭和58年の翌年、東京農工大学事務職員から当時山梨医科大学総務課事務職員に転任し、39年目を迎えました。この間、大学統合や法人化の変遷をたどり、両キャンパスで人事・総務関係の業務を31年間積んできました。この経験を活かし、安全・安心な医療と教育が提供できるように一層努力していきたいと思っております。

事務部長として、各課課長が円滑に業務を遂行できるように努め、総務担当副病院長として、多職種連携を図り木内病院長のもとで病院の持続的成長に向けて尽力して参ります。

早くも半年が経過し、改めて病院は大学運営における健全な財政基盤を確立するために重要な存在であることを実感しています。多くの学内外の会議等に関わり、課題解決、突発的な事態の対応など日々奮闘していますが、令和9年のリニア開通と外来機能強化棟の完成が楽しみで、やりがいを感じています。

業務を進めていく中、社会や技術、環境の変化を意識し、働きやすい職場環境づくりに緊張感をもって取り組んでいく所存です。

休日は家族ぐるみでヴァンフォーレ甲府のサポーターとして、スタジアムに足を運んで一喜一憂しています。J1昇格?皆で応援しましょう!

特定看護師について

臨床教育部特定行為研修センター看護師長 三平まゆみ

「すべての患者さんに安心を」を理念とし、高度かつ専門的な知識と卓越した看護技術を提供すべく、2021年より看護師特定行為研修を開始し、当院での研修修了者は11名となりました。研修終了後は、関連診療科の回診や手術、カンファレンスに参加し、指導医の下で特定行為を安全に施行出来ることを目的に、当院独自に臨床研修期間を約半年間設けて活動しています。特定行為研修修了者を特定看護師と呼称し、役割として、①特定行為に必要な臨床推論と包括的なアセスメントができる基礎的能力を基に、卓越した看護実践能力を発揮すること。②実践に際して、倫理的配慮と安全に留意した知識・技術が適用できるように努め、他職種と協働して主体的に業務を遂行すること。③特定行為を実践するための看護実践能力の開発・維持・向上させるための自

己研鑽を継続することを挙げています。今年6月より5名の特定看護師を配置し、「胸腔ドレーンの抜去」「腹腔内のドレーンの抜去」「直接動脈穿刺法による採血」「橈骨動脈のライン確保」など指導医の指導の下、活動を開始しています。今後も特定看護師の活動が拡大できるよう広報活動に努めて参ります。皆様も特定看護師が活躍できるよう、ご理解ご支援をお願い申し上げます。



「看護功労者」「県民の看護師さん」の受賞

5月12日、山梨県看護大会が山梨県及び山梨県看護協会主催により昭和町内で行われ、当院の小泉夫美子副看護部長、杉山千里副看護部長が「看護功労者」を、堀井悠副看護部長が「県民の看護師さん」を受賞しました。おめでとうございます。

<受賞者コメント>

◇ 看護功労者受賞 ◇ 副看護部長 小泉 夫美子

この度は「看護功労者」を表彰いただきありがとうございました。これまで先輩や同僚の皆様、そして家族に支えられ仕事を続けることができました。

助産師として、妊産婦や子育て中の母親とその家族が、困難を乗り越え自らの力を発揮し暮らしていけるように支援してきました。現在は、看護部管理室で患者さん

が安心して安全な治療やケアが受けられ、また、職員が働きやすい環境で勤務ができるように、管理する役割を担っています。小学校で「いのちの授業」、地域で「孫育て講座」などを行い、助産師活動もさせていただいています。今後も山梨大学医学部附属病院の職員として、また助産師として役割を果たすために精進いたします。



◇ 看護功労者受賞 ◇ 副看護部長 杉山 千里

このたびは、「看護功労者」の表彰を受け大変光栄に思います。1986年に就職し、幾つもの部署を経験させていただき、患者さんのために良い看護をしたいと考え努めて参りました。その間には多くの失敗や苦労もありましたが、諸先輩方のご支援ご指導のもと、同僚、後輩にも恵まれ、今日まで看護師を続けることができました。

心より感謝申し上げます。

現在は教育担当の副看護部長として、看護師の教育・人材育成に携わっておりますが、新しい理論やエビデンスが公表される中、学び続けることが責務と考え努力しています。今後も一人ひとりが大切にしている看護を実践し、患者さんに良い看護が提供できるよう、尽くして参ります。



◇ 県民の看護師さん受賞 ◇ 医療チームセンター副看護師長 堀井 悠

「県民の看護師さん」という素晴らしい賞をいただき、嬉しさと共に身が引き締まる思いです。今まで出会った多くの患者さんやご家族、認定看護師資格取得への後押し、今も変わらず支援してくださっているすべての方々に深く感謝申し上げます。

昨年度認知症ケアチームが発足し、医師、精神保健福祉士と共に

3名で横断的に活動しています。認知機能が低下している患者さんの意思を尊重し、院内多職種と連携を図り、患者さんやご家族が安心できる環境で治療を受けられるように支援しています。これからも、患者さんの人生観、価値観、どのように生活したいか、などの『人を知る』ことを通して、その人らしく療養できるような支援に努めて参ります。



医学部附属病院において防災トリアージ訓練を実施

副防災・災害対策室長 森口 武史

令和5年6月3日(土)、医学部附属病院において、防災トリアージ(※1) 訓練を実施いたしました。本訓練は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い令和元年度(平成31年度)を最後に実施を見送っており、約4年ぶりの開催でした。訓練には学内の教職員・学生約400名と大月市立中央病院のDMAT 隊(※2) 8名(医師1名、看護師3名、業務調整員4名)の参加を得、単一医療機関の災害訓練としては最大規模のものとなりました。



大月市立中央病院と当院のDMAT 隊

今回の訓練は、静岡市付近を震源とする「マグニチュード8」の地震に伴い、山梨県南西部を中心に家屋の倒壊、火災及び交通事故等による多数の傷病者が発生したという想定で、「with corona(ウィズ・コロナ)」をキーワードに掲げ、各ゾーンでの感染対策と災害医療との両立を目指しました。また、4年前の訓練同様、事前に職員の役割分担を決めず、訓練参加者が参集した後に各々の役割を決めるという、いわゆるブラインド型の、より「実践的」な訓練としました。



トリアージの様子

訓練終盤では被災地での食事の提供を想定し、当院栄養管理部により訓練参加者に検食として炊き出しによる食事を提供し、木内本学医学部附属病院長及び大月市立中央病院DMAT 等をはじめ多くの参加者から好評を得ました。



本部活動の様子

訓練後の反省会(検証会)では、大月市立中央病院DMAT 隊の山崎病院長補佐及び各ゾーンのリーダー等より、今後の課題などについて意見が交わされ、当院における災害時の対応を改めて考える貴重な機会となりました。



反省会にて講評を述べる山崎病院長補佐(大月市立中央病院)

※1【トリアージ】大規模災害等により多数の負傷者を受け入れる際、限られた医療資源でできるだけ多くの人を助けるため、重症度により負傷者の搬送や治療の優先順位をつけること。

※2【DMAT 隊】災害派遣医療チーム(Disaster Medical Assistance Team)の頭文字をとって略して「DMAT」と呼ばれ、医師、看護師、業務調整員(医師・看護師以外の医療職及び事務職員)により構成される。大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期(おおむね48時間以内)から活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームのこと。

当院DMAT 隊では、院内各部署から隊員を募集しております。ご関心のある方は、医学域総務課(内線2008)までご連絡ください。(隊員になっていただく場合は、所属長の推薦が必要です。)